

shun 旬 ka 花 ho 報

2号

発行

群馬県立女子大学
同窓会事務局

371-1193 佐波郡玉村町上之手1395-1

TEL: 0270-65-8511(代表)

URL: <http://www.gpwu.ac.jp/>

2004年(平成16年)3月31日

生まれ変わる県立女子大学



県立女子大学長
富岡 賢治

国際社会に対応しうる広い教養と豊かな情操を備えた人材の育成を願って創設された本学は、早いもので二四年目の歴史を刻むことになり、この間三千名余の方々が、国内外の様々な分野でご活躍されております。

大学では、改めて、ここにあることの意義を自らに問い、さらに特色ある大学に発展させたいと考え、現在「大学改革」を推進しておりますので、紫桜会の皆様にその一端を紹介いたします。

一(二)目は、「大学の国際化」です。

来年(平成十七年)四月には、徹底的な実践的英語教育と社会科学等の学習を行う全国的にも極めて特色ある学部として、「国際コミュニケーション学部」を設置します。

また、本年度から始まった「海外語学研修」への補助制度は、支援内容等では全国的に例のない充実した制度であり、百名以上の学生が米国のカリフォルニア大学、ハワイ大学、英国のケンブリッジ大学、エジンバラ大学等で語学の研鑽を積みました。

平成十六年度は、内容を更に充実すると

もに、本学講師陣もネイティブスピーカーの講師を増員するなど、国際化に対応できる学生を育ててまいります。

二(二)目は、「文学部の改革」です。

新学部の創設にあわせて、平成十六年度から国文・英文・美学美術史の文学部三学科もカリキュラム等の思い切った改革を推進します。

その一つとして、「群馬学」の確立を掲げ、真に美しい日本語と日本文化の教育研究の拠点としての大学を構築します。

たとえば、四月から新設される教養教育科目の「日本のことばと文化」は、文化庁長官の河合隼雄先生や詩人の谷川俊太郎・大岡信先生、作家の荻野アンナ・柴田翔先生など日本語・日本文化研究最前線の専門家を招聘し、広く県民の方々にも公開する授業を実施します。

三(二)目は、「大学の活性化(女性の社会的自立を目標と)」です。

本年度大会館一階に「ボランティアコーナー」を設置し、週三回程度昼休みに県内の様々なボランティア団体の方々が相談等に応じています。

また、就職対策も近年非常に重要性を増す中で、十名の就職支援アドバイザーを委嘱し相談・就職先開拓などを積極的に、インターンシップを授業科目として単位化するとともに、三十時間に及ぶ公務員試験特別講座も実施しました。

平成十六年度は、公務員試験特別講座を九時間に延長することやバスによる学生の企

業視察など、より一層の充実をはかります。

四(二)目は、「大学の地域貢献の充実」です。

本年度は、本学の目玉として実施されている「県立女子大学公開講座」のほか、女性リーダーの招へいによる連続講演会やフォーラムの開催、本学ネイティブスピーカーによるTOEICなどの資格取得を目指す「英語コミュニケーションセミナー」を実施しました。

県立の大学であるという自覚のもと、学生にとっては地域活動・ボランティア活動等に積極的に参加するとともに、県民の方々にとっては、自己の教養等を高めるために魅力ある大学開催事業の展開を図ってまいりたいと思っております。

終わりに、同窓会も、「紫桜会」という素晴らしい名前となり、これを機に、ますますの発展が期待されます。

県立女子大学も新たな改革に向け、教職員一丸となり邁進いたしますので、より一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

旬花報に寄せて



同窓会長
城代富美江

会員の皆さまいかがお過ごしでしょうか。ここに旬花報の第二号をお届けできますことを大変嬉しく思っております。母校の情報やこの会の活動をお知らせする会報は、年に一度皆さまと想いを一つにする機会と思っております。

さて、今年度は同窓会の名前が決まったことを皆さまにご報告いたします。活動をしていく上で、「名前がない」ということになり、名称募集を行ないました。多くの方から

色々な案が寄せられ、選定委員会では長時間議論をいたしました。一言で女子大がイメージできる名前にと、現在は東京でお仕事をなさっている松田晶さんの「紫桜会」が選定されました。今後は「しおうかい」で通知いたします。愛情を持っていただければと思っております。

また、新しい事業として、学生を表彰しようということになりました。これは、後輩に有意義な学生生活を送っていただきたいということから、意欲を持って頑張っている学生を表彰する制度です。表彰規程を定め、十一月の総会で承認をいただき、自薦他薦で学生に募集をかけました。短期間のことでしたが、表彰第一号は、E・S・Sとダンスサークル(Burning Soul)に決まりました。十五回を数える「紫崎杯英語弁論大会」を開催する等永年にわたる活動が認められました。又、バーニングソウルはダンスと共にそのボランティア活動が認められ表彰に至ったわけです。大学を卒業し社会に出て感じるの、学生時代は「時間のゆとりとエネルギーのある若さがあった」ことです。紫桜賞は小さな賞ではあります。大きな夢を育むきっかけになればと願っています。

新年度では、何を進めていこうかと役員一同思案中です。その中に、総会懇親会の実行委員を決めましょうという声が聞こえています。大学卒業後二十年を経過した学年と二十年目を迎えようとする学年の二学年が毎年の幹事を受け持たうらたという案です。つまり、初年に一学年と二学年が担当し、次回は二学年・三学年、その次年三学年・四学年と続いていくわけです。昨年の懇親会では、渡邊先生から、渡邊ゼミの会を懇親会に宛ててくださるという心強いメッセージがありました。今後ますます総会が盛会となるように考えます。皆さまのご協力をお願いいたします。

また、紫桜会では、会報の寄稿や発送作業等お手伝いいただける会員をお待ち申し上げます。よろしくお願いたします。

人を樹える

濱口 富士雄



同窓会が、一九八〇年の開学後、ほぼ二十年を経てのんびりと

機が熟すようにして発足したことは、文学部という実学とはかけ離れて、人間が営々と築き上げてきた文学や芸術などの精神にかかわる虚学としての文学現象を学ぶ県立女子大学にいかにも似つかわしい経過ではなかったかと妙に得心しています。

県立女子大学のあり方は、卒業された同窓生の方々が、まさに国文・英文・美学美術史と分化するものそれぞれで専攻で修められて教養を背景として個別的な生き方を設計される生涯をかけての長期的な過程に反映されるのではないかと思っています。

実は、専門としている中国古典文学にかかわる立場で、文学部というのには「人を樹える」学部ではないかと常々感じています。「管子」という書物に「一年の計は、穀を樹うるに如くは莫し。十年の計は、木を樹うるに如くは莫し。終身の計は、人を樹うるに如くは莫し。」とあります。短期的な成果を期待する場合には車の教習所などそれなりの算段がありますが、生涯をかけての展望を模索するには、人材の育成に越したことはなく、群馬県

が本学にまず文学部を置いたことは見識が非常に高かったと思っています。

したがって文学部で学ばれた成果の、その主たる部分は卒業後相当の年数を経て、子育て、孫を抱くような年代に達した時に、同窓会での語らいの中に個々人の深い内省として現れるのではないかと思います。

不満に乾杯！なにごとも つづけてこそ面白い

戸所 宏之



かれこれ三十年以上芝居に携わってきた。特に昨年、桐生の有隣館演

劇祭に招かれ、あの魅力的な酒蔵で芝居ができたことは、私にとって、また、劇団にとって、記憶に残る出来事となった。正直、芝居をやっているよかったです。それにつけてもつくづく思うのは、つづけることの大切さだ。

私は生来、短期であまり忍耐というものを知らない人間だ。ところが芝居作りは不満との戦いだ。たまに我慢できずに爆発する。だが、ほとんどは腹のため込んでいる。だから、公演が始まるころはもう限界だ。人間ができていない私は、もう芝居なんかやめた！と腹の中で自身と劇団員に対して毒づいている。ところが、芝居が終わり数ヶ月も経つと、芝居がやりたい！という衝動が頭をもたげ

て来る。この三十年はそのことの繰り返しと言ってもいい。不満だらけなのに、何故そんな衝動が起るのだろうか。そんなに不満ならやめてしまえば楽ではないか？

自分でも気付かないほど芝居が好きなのだろうか？いや、むしろ理由は別にありそうな気がする・・・不満は一見、持続の妨げになっているように見えるが、実は一種のビタミン剤であり、不満があればこそひとつのことをつづけることが可能になり、ものを創り出すよろこびを味わわせてくれるのだ。

不満が持てるということは、かなり贅沢な状態なのだ。だから、不満に乾杯！なにごともつづけてこそ面白いがじわじわにしみ出してくる。

大学のことなど

—同窓会の皆様へ—

齋藤 晋



学生実験室の窓辺のケヤキも、かなり太くなってきた。高さはすでに二階を越え、屋根の部分にまで届いている。玉村のキャンパスは、前橋のキャンパスが二年なので、二十二年が終わりうとしている。テニスコートのそばやグラウンドのまわりの木々も大きくなってきて、それなりの伝統が出来つつあるな、と思えてくる。

最近の世のなかの変動は、急激である。例えば、国立大学は独立行政法人になるし、市町村などは合併するし、円も上がったり下がったりしている。とくに、高等教育は社会的なニーズとも関連して、内容も豊富になってくるし、専門性も高くなっていく。

私たちの大学も二十五年目を迎えるようとしていくが、新学部がやっと出来そうである。逆に、二十五年間も何もやらなかったというほうが、ちょっと珍しいのではないか。

残っている公立女子大学でも、大阪女子大は府立大に合併するという。広島女子大のほうはこのまま女子大とおすよのだが、このOGの夫たちは、広島県の政財界の顔が多いとのことである。したがって、何かあると、お金をすぐに集められるし、いろんな所へ圧力をかけられるという。

私たちの大学の建学の精神はまあいいが、実際には現実とはかけ離れすぎているように思える。社会で自立するのであれば、当然男性たちの相手をするし、この複雑な世の中で他の分野のことも知らないで、原因の究明など出来る訳がない。高等教育の場としては、どう考えても共学の総合大学でしかない。

大学の氷河期を乗りきるためには、現実をきちんと分析し、はっきりとした考えを述べていくことが、同窓会の役割であらう。

同窓会名「紫桜会」に決定!

「同窓会として現役の学生と関わりをもてる有意義な事業を行いたい。」と考え、「顕著な活躍をした現役の学生を同窓会で表彰しよう」ということになりました。学生が、一生懸命に何かに取り組みその励みになるように、同窓会として応援する気持ちを「賞」という形で表していくことになりました。

具体的に賞を設定するにあたり、同窓会名を皆様より募集しました。百余りの候補の中から、厳正な審査の結果、同窓会名は、「紫桜会」に決定致しました。

同窓会名受賞者インタビュー



受賞者

松田 晶さん

(美学十期)

①応募のきっかけは：募集していることを会報で知り、偶然ですが、なぜか当選する気がしました。

②受賞した感想：まさか本当に受賞するとは！と、予感が当たったことに驚きました。

③紫桜会に望むこと：卒業する人、新しく入学する人、時代もどんどん変わりますが、伝統と言うほど重い言葉では

ないですが、何かつながりが感じられるような会として、続いていけばよろしいのではないのでしょうか。

④紫桜会に託した言葉のイメージは：グラウンドや通りから、まず目に入るのが、あの桜色のようにであり、藤の花の色のようにであり、きれいな何とも言えないあの色でした。学生時代の中で、一番強く印象に残っている色です。仲間といるいろいろなことに首を突っ込み充実した日々を尊重する、今の気持ちです。

⑤創作時の苦労：パッとあの校舎の色が浮かんだので、迷わず決まりました。

⑥副賞の使い道：まだ郵便局にあり、受け取っていません。楽しみです。

⑦卒業後の大学との関わりは：ソフトボール部におりましたので、OG会に参加し、何年かに一度はグラウンドで試合を楽しみました。

⑧学生の皆さんに望むこと：いろいろな世界を知り、いろいろなことに関心をもち、自身の感性を磨いてください。

記念すべき表彰第一号は

※E・S・S

(活動内容)

十五回続く伝統ある大会「柴崎杯英語弁論大会」を毎年開催。新聞誌上にも大きくとりあげられ、大成功を収めている。その他、他大

学E S Sを招いてのディスカッションや「高校生英語スキットコンテスト」にも参加している。

※ダンスサークル (Burning Soul)

(活動内容)

プロ指導のダンスレッスンと共にそのダンスのイベント依頼も多々あり、学祭や夏祭りの他、バリアフリーダンスイベント等にも参加、ボランティアにも貢献している。その活動が認められ第十八回伊勢崎市青少年健全育成大会にて表彰。以上、二団体に決定致しました。今後ともそのご活躍をお祈り致します。おめでとうございます。

群馬県立女子大学同窓会表彰規程

(目的)

第一条 この規程は、文化・学術・スポーツ及び社会活動等の振興に務め、群馬県立女子大学の発展に寄与した者に対して、その功績をたたえ表彰することを目的とし、群馬県立女子大学同窓会設立五周年を記念して制定する。

(表彰の名称)

第二条 表彰の名称は紫桜賞とする。

(表彰の対象)

第三条 表彰の対象は、群馬県立女子大学同窓会会則(平成十一年五月二十二日制定)第三条に定める通常会員のうち群馬県立女子大学の在学生(学部生及び大学院生)とする。

(表彰の規準)

第四条 表彰の基準は、別に定める。

(表彰)

第五条 表彰は、表彰状に記念品を添えて、群馬県立女子大学同窓会会長が行う。

(選考)

第六条 表彰者の選考は、群馬県立同窓会会則第四条に定める役員のうち会長・副会長・常任幹事をもって構成する選考委員が行う。

(改廃)

第七条 この規程の改廃は、群馬県立女子大学同窓会総会の議により行う。

(その他)

第八条 この規程に定めるもののほか必要事項がある場合は、別に定める。

附則

この規程は、平成十五年十一月八日から施行する。

群馬県立女子大学同窓会表彰基準

第一条 群馬県立女子大学同窓会表彰規程(平成十五年十一月八日制定)第四条に基づき、表彰の基準を定めるものとする。

第二条 表彰の規準は次のとおりとする。

(1) 文化及び学術・スポーツ等... 学術及び芸術文化活動の振興に務め、大学の発展に功労顕著な者
各種コンクール・大会(同類のもの)等に入賞

(2) 社会活動... 社会において活躍し、大学の発展と大学の名の高揚に貢献した者

総会・懇親会

去る平成十五年十一月八日、ホテルメトロポリタン高崎において、第四回（*写真参照）同窓会及び懇親会が行われました。同窓会総会の後開催された懇親会は、参加者の人数は昨年よりも少なく少しさびしかったのですが、とてもアットホームな雰囲気でした。

以下、参加された皆さんの感想をご紹介します。

先生方のコメント

神山 雄一郎 先生

料理がとてもおいしく良い雰囲気です。楽しく過ごすことができました。来年はもっとたくさんの方の同窓生に会えればと思います。

ゼミの仲間、クラブの仲間、年一回同窓会で会いましょう。新しい自分の発見があるかも知れません。

長沼 清太郎 先生

大昔と一緒に勉強した人達に会えて、とても嬉しく思いました。先生方の参加が少なかつたのが、少し残念でした。（同窓生に対して）お嬢さんたちを女子大に入学させて下さい。特に英文学科に！

日下 洋右 先生

久しぶりに出席しました。皆様にお会いできてとても感激しております。お互

いに体に気をつけて、これからも長く交流を続けてほしいですね。

大学に時々顔をみせてほしいですね。

大学も急速に変革していますので、協力のほどよろしくお願いします。

渡邊 正彦 先生

はじめて出席しました。最初から出席していればと後悔しています。こんな楽しい会をぜひ卒業生全員に味わっていただきたい。

お子さん同伴でぜひ。

同窓生のコメント

(順不同)

美学二期 川口 順子

スタッフのみなさんが、本当に一生懸命やっていたので頭が下がります。ありがとうございました。

英文三期 小淵 日登美

なつかしい先生方、そして友人たちに久しぶりにお会いし、楽しい時間を過ごすことができました。幹事の皆さん、お忙しい中、このような会を企画していただき、ありがとうございました。

国文三期 清水 千恵子

今日参加した人がお友達を一人誘って参加してくれたら来年は二倍。再来年は四倍。これいいアイデアでしょう？

英文三期 仁井 登美子

久しぶりに友人に会い、ゆっくりとした時間を楽しめました。参加者ももっと増えれば、楽しみも増すと思います。今年参加できなかった方と来年会えるのを楽しみにしています。

英文五期 朽原 貴子

久しぶりにいろいろ話ができよかったです。これからも参加したいです。五期生がもつときてほしい。

国文五期 渡邊 生子

毎年出ていますが、出席者の顔ぶれが少し違って感じるように感じられます。出席できる時に出席してもらえればと思います。

国文六期 新井 安紀子

昨年につづき今年も参加させていただきましたが、参加者が少ないです。今年は更に減ってしまったので寂しい限り。懐かしい人に会えると思えばこそ参加するのに、

知人がいなくてつまらないので、もう出ないという悪循環になってしまわなければ良いのですが...

国文七期 品川 晴美

毎年参加していますが、一年に一回元気な顔を見られる事がとても楽しいです。

国文七期 水出 裕子

毎年楽しみにしています。今年のケーキはすごくおいしかったです。（私は飲む方です）

国文八期 佐藤 佳代子

今回初めての参加でした。スタッフの方々がほぼ毎月のように活動していることが分かり、本当に頭の下がる思いでした。普段の生活から離れて、久々に学生時代の友達の話聞いて、楽しかったです。ありがとうございました。

国文八期 保坂 佳寿枝

初めて参加させていただきました。久々に会う仲間、先生方。学生時代にタイムスリップしたようで楽しいひとときでした。もう少し同期生が参加していると良かったかなと思います。

国文九期 吉田 由里子

ありがとうございました。去年のこの会以来の友達とゆっくり話せてうれしかったです。今度は他の友だちにも声をかけて広げたいなと思いました。

国文十期 今井 一江

去年、十期は国文、英文、美学を含め、四人の参加でしたが、今年は六人になりました。また、来年増えてほしいなと思います。

国文十期 米澤 英子

同窓会初参加でしたが、同期の友人だ

けでなく、先生方のお顔も拝見できて、とても楽しい時間をすごすことができました。子供がまだ小さいので「大丈夫かな？」と思いつながら、一緒に連れてきてしまいました。来年もまた是非参加したいと思います。

国文十期 押見 佐智子

昨年より参加人数が多くてうれしかったです。しかも花までいただいで、この先一年間、何かいいことがあるかも、と思えました。来年はさらに盛り上がることを期待しております。役員の方には、毎回頭が下がります。

美学十期 小暮 悦子

初めて出席させていただきました。友人の近況があまりに変化しているので、大変おどろきました。楽しかったです。

美学十期 岡本 美佐子

すごく懐かしい顔を見られて楽しかったです。ケーキが美味しいです。

国文十二期 山根 典子

今回初めて参加しました。同期がいるのかわからない(いたらごめんさい)。でも、先輩方に囲まれて楽しかったです。奮起した今回に限って、恩師(北川先生)不在で無念ですが、「ぜひ次回は仲間と。」と言われて、実は今もつきあいがあるのが退学生。いいかしら、誘って? 来年も楽しみにしています。

◆キッズルームの感想(抜粋)

※全員の方の感想を掲載できずすみませんでした。(一内はお子さんの年令)

◎先生方のごあいさつの時とか、とってもいい子でビデオを見ていて助かりました。

◎ビデオを用意していただいたのが良かったと思います。アメとふうせんも大喜びでした。

◎もう大きいので、ビデオ等よりは食べる方が忙しかったようで、ほとんど利用しなかったです。同じ位の子が少なかったのも、もっと友だちが多く来れると良かったですね。

(七歳)

◎安全なボールとか大きいサイコロとか、遊具が少しあればよかったです。スペースも、もう少し広い方が良かったです。(九・六・三歳)



前回に続き司会をして下さった高橋典子さん。子供さんをつれて本当にご苦労さまでした。



プレゼントがあたり、笑顔の渡邊先生



神山先生、お孫さんですか?



今回はお母さんも子供も一緒に部屋でした。



長沼先生をかこんで



とっても美味しかったお料理の数々。

近況報告



懇親会に残念ながら出席できなかった皆様からの近況をご報告します。今年は是非ご参加いただき、お会いできることを楽しみにしています。

「お元気ですか」



国文五期 唐木 博子
(旧姓塩澤)

同窓会からの通知をいただく度に、大学のこと、友人のこと、先生方のことなどを思い出しています。郵便物の中に大学名のはいつている封筒を見つけると、とても嬉しく思うものです。メールや携帯電話を使うことが多い日常ですが、便りが届くというのも楽しみなことです。

私は仕事の都合で一年余り夫と離れて暮らしており、緊急の連絡でないときは、手紙や葉書を送ることにしていました。仕事の状況や日常のできごとを伝えるつもりが、食事はきちんと摂っていますか、風邪をひいていませんか、お酒は飲み過ぎないように、などと気掛かりなことを書き連ねてしまいます。一度書き終えてからも、あれこれと追伸の多い手紙です。先日、学生のとときに母から送られた手紙を見つけました。それもまた、野菜をちゃんと食べていますか、というような

内容のものでした。あの頃(八〇年代)らしく、一気飲みをしてはいけません、ともありました。私から夫に宛てた手紙とあまりにも似ていることに驚きました。あらためて、母からの手紙をありがたく思えたものです。そして学生生活を懐かしく思い出してみたりもしました。

「大阪暮らし」(大阪市内編)



英文九期 田村 智代
(旧姓堀川)

卒業してから十年余りが経ち、私は現在大阪で暮らしている。結婚を機にこの地に移り住んで、かれこれ八年だ。住まいは大阪城からほど近く、交通の便もなかなかよいので、全国的に大阪といえ、よくTVに出てくる迎いが、我が家のお出かけスポットにもなっている。

さて、その「大阪といえ」であるが、やはり、世間的には食いだおれの街、阪神タイガースの街ということになるのだろうか。特に去年は、タイガースの久しぶりのリーグ優勝ということもあって、さらにそのイメージが強まったことと思う。が、念の為に言っておくと、タイガースの本拠地は「兵庫県」の甲子園である。大阪を本拠地とする球団は、パ・リーグの「大阪近鉄バファローズ」。また、大阪人の中には、巨人ファンも結構いる。皆さんが今後、大阪で生活されるのがあった場合には、覚えてたの関西弁で、「阪神のファンでつかー。」などと口走らないように注意されたい。

もう一つの「食いだおれ」であるが、これは決して「グルメ」ではないものの、概ね評判通りだろう。たこ焼き、お好み焼き、焼きそばなどの「粉もん」はもちろんのこと、焼き肉やぶぐ、カニも割と気軽に食べに行ける。また、関西人は食べないといわれている納豆も、最近では市民権を獲得し、スーパーで普通に売っている。朝食に納豆が欠かせない方も、安心してお越しいただきたい。紙面の都合上、プロ野球と食べ物のお話だけになったが、後は皆さん、USJなどで遊ぶついでにご自分で確かめてほしい。そしてその際にはくれぐれも、悪名高き「ひったくり」にご用心を。

「おおもつつあん」の喜び



国文十一期 大森 衣里子

私は現在、出身地である愛知県の常滑

市立南陵中学校に勤務しています。校舎の三階からは、海上に建設中の中部国際空港が着々と完成に向かっていくのが見えます。

教員になって十年目になりますが、「これだから教員はやめられない」と感じる瞬間が時々あります。

私は、昔から運動音痴でした。だから、現在の学校に移動した時にバレーボール部の顧問になってしまったことが最初は苦痛でした。しかし、バレーを楽しみ、バレーに燃える生徒たちを見ていううちに、私自身がスポーツの楽しみを知りました。

今年度は、吹奏楽部顧問になりました。大好きな音楽を生徒たちと一緒にやれる喜びを味わっています。文化祭での吹奏楽コンサートのために、プログラムや演出などを生徒と一緒に考えました。本番では、指揮をするだけでなく、生徒にまじって私も楽器を演奏しました。大学生の時に合唱部に入っていた私は、演奏会前の忙しくても何だか楽しかった日々を思い出し、若い気分になりました。

いろいろ課題も多い教育現場ですが、生徒たちはこうして、いろいろな場面でパワーを見せてくれます。学級の生徒から「おおもつつあん」と呼ばれる私も、生徒たちからパワーをもらっています。思えば自分自身、学校での毎日の様々な経験からたくさんのおもつつあんを学んできました。そんな時期の子どもにも携わる喜びと責任を感じる日々です。



平成14年度 会計報告

収入の部		支出の部			
前年度より繰越金	¥ 972,498	懇親会補助金※1	¥ 100,000	郵便・郵送費	¥ 631,580
14年度分年会費	¥ 573,000	企画広報費(懇親会補助)※2	¥ 77,404	振込手数料	¥ 33,520
14年度入学者入会金	¥ 398,000	企画広報費(旬花報)	¥ 48,763	会議費	¥ 46,748
		事務用品	¥ 8,234	(支出小計)	¥ 1,017,649
		錦野印刷代(増刷分)	¥ 71,400	予備費	¥ 925,849
合 計	¥ 1,943,498	合 計	¥ 1,943,498		

※1 ※2 平成14年度 懇親会 会計報告

収入の部		支出の部			
本部会計より補助金	¥ 100,000	懇親会飲食費	¥ 357,980	記録用写真	¥ 2,708
本部会計より補助金	¥ 77,404	テーブルフラワー	¥ 40,000	会議費	¥ 40,315
出席者負担金	¥ 360,000	キッズルーム	¥ 30,840	サービス料・消費税(ホテル分)	¥ 65,561
合 計	¥ 537,404	合 計	¥ 537,404		

平成15年度 予算

収入の部		支出の部			
前年度より繰越金	¥ 925,849	広報費	¥ 300,000		
15年度分年会費	¥ 600,000	企画費	¥ 200,000		
15年度学部入学者入会金	¥ 428,000	懇親会補助金	¥ 100,000		
15年度大学院入学者入会金	¥ 14,000	事務用品	¥ 50,000		
15年度編入学者入会金	¥ 8,000	郵便・郵送費	¥ 700,000		
		振込手数料	¥ 35,000		
		会議費	¥ 50,000		
		(支出小計)	¥ 1,435,000		
		予備費	¥ 540,849		
合 計	¥ 1,975,849	合 計	¥ 1,975,849		

「卒業準備金 預かり制度」発足に伴う預かり金について

預かり金額	期	預けに来た人	預かった日	
¥ 88,527	17	国文学科 竹野あゆみ	2001. 3.18	通帳(群馬銀行 玉村支店)にて管理
¥ 70,000	13	国文学科 齋藤 恵	2001. 9.11	
¥ 98,916	18	美学美術史学科 野手 千歌	2001.11. 2	

平成14年度 活動報告

月 日	活動内容
14. 4. 5	役員会議 入学記念品贈呈 会長入学式出席
4.28	役員会議
5.11	第4会幹事会 総会準備委員会・広報委員会発足
7. 7	役員・総会準備委員会議 年会費納入通知発送作業
8.11	役員・総会準備委員会議 広報委員会議
8.23	広報ネーミング審査会
8.25	総会・懇親会案内発送 総会準備委員会議
9.16	役員・総会準備委員会議
10. 3	広報委員会議
10. 9	広報タイトルロゴ審査会 広報委員会議
10.13	平成14年度総会・懇親会
15.2.16	役員会議
2.22	「旬花報」創刊号編集会議
3. 9	「旬花報」創刊号編集会議
3.25	学長・会長対談 会長卒業式出席 「錦野」発送作業

平成15年度 活動計画

月 日	活動内容
15年 4月	入学記念品贈呈 広報委員会議
5月	役員会議 広報委員会議
6月	第5回幹事会 役員・総会準備委員会議 年会費納入通知発送 「旬花報」発送 広報委員会議
8月	役員会議・総会準備委員会議総会・懇親会案内発送
9月	役員・総会準備委員会議
10月	役員・総会準備委員会議 広報委員会議
11月	平成15年度総会・懇親会 広報委員会議
12月	役員・総会準備委員会議 広報委員会議
16年 1月	同窓会企画イベント 広報委員会議
3月	役員会議 「錦野」発送作業 広報委員会議



▲ 総会終了後



▲ 懇親会にて



▲ 総会での報告(山田さん)

同窓会からの

お知らせ

... information ...

大学の近況 女子大改革について

近頃、群馬大学と埼玉大学との統合や様々な大学改革が話題にのぼっています。少子高齢化社会を背景として、学生数の減少に対する効率化、学生の確保や生涯学習に対応した、より特色ある大学づくりが求められているのです。女子大もまた、他の大学と同様、改革の必要性に迫られています。

では、女子大における改革とはどのようなものでしょうか。

女子大は、平成十三年四月、明石康・元国連事務次長を所長に迎えて外国語教育研究所を設置するなど、英語教育改革を皮切りに、「大学の国際化」、「大学の活性化」及び「大

学の地域貢献の充実」の三項目を基軸とする改革を始めました。

その中心的な取り組みは、新学部「国際コミュニケーション学部」設置です。国際ビジネス、英語コミュニケーションの二コース制で、平成十七年度の設置を目指しており、国際性に富んだ社会的自立心のある人材の育成を図るものです。

現在は、学部新設に先駆けて、学生の海外語学留学の支援や県民向けに英語検定の資格取得につながる実用英語講座の開設をしています。

平成十六年度からは、現文学部改革に着手します。これは、現在力を入れている外国語教育の充実と併せて、自国の言語や文化を見つめ直し、時代に合った真の国際化につなげるための取り組みです。

日本語や日本文学、日本文化に造詣の深い著名人のリレー講座を一般県民にも開放して開講します。また、必修科目として「日本語表現プログラム」を設置し「美しい日本語研究・教育」の拠点づくりに取り組むほか、群馬県の言葉や文化に関する科目を新設し、群馬県に関する幅広い研究を「群馬学」として確立することを目指します。

また、大学改革を一気に加速させる動きとして、平成十六年度から、高崎経済大学、前橋工科大学との単位互換を開始します。

単位互換とは、他大学で履修した授業を単位として認定する制度で、各大学の得意分野を生かして教育研究を充実させ、学生の多様なニーズに応えようとするものです。

こうして改革の内容をみていくと、私たちが在学していた頃に比べ、大きく変化していると感じられると思います。魅力ある大学を目指し、変わっていく女子大に注目していきたいと思えます。

同窓会のおしらせ

左の写真は役員会議の風景です。

こんな風に和気あいあいとやっております。是非みなさんも一緒にやりませんか。回りに役員さん等おりましたら、気軽に声をかけて下さい。

出来る事からはじめませんか。とりあえず『旬花報』への投稿などいかが。

近況、職場のこと、子供さん、どんな様のこと、等々待っています。



編集後記

修太郎、元気ですか。修の去った家は淋しさばかり募ります。修の靴のあった場所が、あいています。使わない茶わん、見ると涙がポツリ。これが味わえるのも親ならばこそ、親子の証し。積み重ねてきた日々の結晶が今ですか。

大学の入学式、美しきその風景の中に君はいました。君の髪に桜の花びらが一枚舞いおちる。ただ一つ最後なかなか声がかけれなくて、「身体に気をつけて」とだけやっと別れ際にゆえました。普通にゆうのが精いっぱい、ドラマの様にはいきません。今はたまにある電話の声に一喜一憂し、その頼もしい声が一番何よりです。

子供と共に暮らしてきた年月は、そのまま私の命の糧です。こうして大学を卒業した私たち同窓生に幾多の人生のドラマがあるのでしよう。こうした時を経て集う同窓会はきっと、自分自身を振り返るチャンスであり、同時に第二のステップとなり得る場所であると信じています。こんな思いを噛み締めながら、大学へ足を運んでいます。

同窓会の活動をより多くの人に知ってもらう為、『旬花報』はあると思います。

皆様の御助力とあたたかい励ましの中、第二号を発行することが出来ました。本当にありがとうございます。

(広報委員長 狩野順子)